

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「夢 (gift) を明日へ
つなげよう」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーは親睦と
奉仕の融合」



世界へのプレゼントになろう

2015～2016年度

国際ロータリー会長 K.R.ラビンドラン
2560地区ガバナー 山本 和則
高田ロータリー会長 水上 喜芳
幹事 大島 誠

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
田中 正人 小熊 貞良 栗田 修行
笠谷 吉春 小林 豊茂 霜村 浩

第4回例会 ■ 7月24日(金)

No.4

会長挨拶 ● 水上 喜芳



みなさんこんにちは

先週のガバナー公式訪問時、山本ガバナーが帰りがけに、各委員会の運営方針、活動方針がしっかり計画されている、と褒めて帰られました。クラブ協議会で発表頂きました委員長さん副委員長さん大変ありがとうございました。

ガバナー公式訪問の目的の一つに

・ロータリアンとしての奉仕活動参加への意欲をかきたてる

と言う項目がございますが、実はこの奉仕の精神についてポールハリスがロータリーを設立した1905年当初から理念としてあったわけではないのです。

では、いつロータリーに奉仕と言う理念が取り入れられたかと申しますと、ロータリー設立してからしばらくしてからのことで、そのきっかけは、ポールハリスが友人の一人である弁理士のドナルド・カータのところへ会員にならないかと誘いに行ったとき、彼から思いがけない言葉を返されました。

その言葉とは『折角だけどその申し出は断るよ、なぜなら自分たちだけの利益だけを追求する相互扶助の会や団体は、社会的に意味がない。そんな会はやがて崩壊する』でした。

この言葉がきっかけでポールハリスの中に奉仕の心が芽生え後にロータリーの『奉仕の理想』まで繋がったと言うエピソードです。

時に、ポールハリスは38歳と言う若さでした。そして、それから10年後アーチ・クランプによって今のロータリー財団の基礎が出来る事になります。

本日の卓話は上越教育大学 准教授 笠原 芳隆 (かさはら よしたか) 様から「障がいがある人の自立と社会参加を見すえた支援」と言う演題で卓話を頂きます。

出席報告

出席率 100%

ビジター

秋山政一君 (越後春日山 RC 会長)
日馬大成君 (越後春日山 RC 幹事)

内山律子様 (J プロモーション代表)
飯塚むつ子様 (カラーコラボ Mu 代表)

セレモニー

2014-2105 年度 例会 100%出席者 表彰

委員会報告

出席・ニコニコ BOX 委員会

三井慶昭君——昨日 民謡流しで素晴らしい汗
を流せました。感謝です。

会員インフォメーション

大島 誠君——アールブリュット美術館 建設に
向けての署名

幹事報告

配布物：週報No.3

回覧物：アールブリュット美術館建設に向けての
署名

報告：地区大会開催のご案内

8月例会プログラム

回	日	講演者：演題	会場
6	8月7日	納涼会	宇喜世
-	8月14日	特定休日	-
7	8月21日	Jプロモーション代表 内山 律子 様 【演題：未定】	デュオ・セレッソ
8	8月28日	糸魚川RC 保坂 達治 様 【演題：未定】	デュオ・セレッソ

卓話

障がいがある人の自立と社会参加を見すえた支援



X-10

国立大学法人上越教育大学大学院 特別支援教育コース 准教授 笠原 芳隆 様

障がいがある人の「自立と社会参加」推進が叫ばれて久しいですが、障がいがある人にとっての「自立と社会参加」とは何でしょうか？それは、特別な活動に参加することではなく、むしろ私たちの暮らしと同じように、衣食住をはじめとする「地域での生活基盤の安定」、仕事や地域活動等の「日中活動への参加」、趣味活動等の「余暇活動への参加」の三本柱が成立し、その具体的な中身を自分自身で「選び、決めて行く」ことではないでしょうか。

障害者総合支援法等の法律度整備により、障がいのある人の「自立と社会参加」は着実に進んでいると思います。しかしまだ十分な状態であるとは言えません。そのような中で「私たちには何が

できるか」ということを考えていく必要があります。例えば上越教育大学に勤める者としては「人の心の痛みやさまざまな個性を認められる子どもを育成できる教員の養成」が、共に生きる社会人としては、「バリアフリーでユニバーサルな街づくり」や「就労・余暇支援」等が挙げられます。私自身も微力ながら上越教育大学の職員として、また一人の社会人として、できることを続けていきたいと考えています。

障がいのある人もない人も同じ地域で同じように自立と社会参加ができる、そんなノーマルな社会の実現を目指して、一人一人ができることを考え、実行できたらと思います。